2015年度　社会福祉法人ライフサポート協会　事業計画　部門　特養（入居+短期入所）

作成者　上村・門馬

1.　2014年度の総括

① 収支状況（表中の単位：千円）

決算見込み		予算比（%）	前年比
収入	162, 630	96. 6	⇩
支出	160, 301	101. 2	⇧
経常収支差額	2, 329		

評価：入居ではご逝去により空床の期間が長い月があった事、また短期入所も新規利用者は利用されるも、定期利用に結びつかず。定期利用者の入院や入居に伴い、空床を減少させる事が出来なかった事が予算未達成に繋がった要因である。

② 職員配置と研修（職員数は2015年1月現在）

契約職員1名・非常勤職員数名の不足が見られた。非常勤職員の雇用もあったが、労働が長続きせずに安定しなかった年であった。理由として中高年層の身体、体力的な負担がある中で、今後どのように働きやすい職場作りを検討していくかが課題である。突発的に職員の休職も発生したが、その際は職員間での協力で乗り切れる事が出来た。しかし同様の事が今後も予測され、人員補強は必要不可欠である。

研修は、一般職にも講師として他の職員に伝える事により、自分自身の学びも含め、「伝える」難しさを痛感し、他の研修を受講する時の姿勢も変化があったように感じる。今後も継続していきたい。

③ 事業内容

2014年度は、入居者さんと職員の距離を近づける為に、職員のユニット固定化を行った。この事から双方に関係性が今まで以上に深まり、入居者さんの声や行動にも変化が見られ、職員も入居者さんの事をもっと知りたいと思う事が出来た取り組みであった。今後の実践にも繋げていきたい。

また他部署との交流も含めた繋がりを持つ事が出来た。作品展＆バザーや納涼祭など、「特養」という場に足を運んで下さった利用者さんや職員、地域の方が多かった。

④ 品質管理

軽微な事故も含め、介助が必要な入居者さんへの事故が大半を占めており、職員の介助技術や気づきの視点等の不足も含め、職員が事故を起こしていることが多い。移乗やリスクマネジメントの勉強会を通して、学びを深める機会を作って、質向上を目指しているが、課題に残る内容である。

入居者さん、家族さんへの「職員体制が大幅に変更して不安がある」という声が以前はあったが、日頃の支援を基に、少しずつ不安を安心に変えていけるようになってきたのではないかと感じる。